

1. 概要

「水防災意識社会再構築ビジョン」に基づく取組方針に対する各機関の取組について、令和元年8月豪雨の概要と課題等について情報を共有するとともに、出水を踏まえた住民の防災意識の向上、住民の避難行動、市町の災害対応能力の向上などについて、活発な意見交換がなされた。

2. 実施状況

- 日時：令和元年10月9日（水）
- 場所：武雄河川事務所3階 会議室
- 出席者：佐賀市、唐津市、多久市、伊万里市、武雄市、小城市、大町町、江北町、白石町、佐賀地方气象台、佐賀県、武雄河川事務所 関係機関17名参加



3. 議事内容

- 1) 令和元年度 第1回協議会の議事概要について
- 2) 令和元年8月豪雨の出水概要
- 3) 意見交換(8月豪雨の課題など)

4 主な意見・コメント等（案）

- 前線性豪雨によって急に水位が上がるような出水時の各対応、タイムラインの活用方法が課題である。
- ホットラインは避難勧告等の判断に役立っており、首長による避難の呼びかけが今回も行われた。
- 浸水状況を踏まえ、垂直避難を促すなど住民の安全を優先した避難の呼びかけを行った。
- 道路冠水による通行止め等により職員参集や避難所までのルート確保、水防倉庫資機材の搬出、救助活動等に支障をきたした。
- 受援マニュアルの活用や、災害時の各部署の役割分担により、発災後の対応がスムーズにできた。
- インターネット情報において、河川の一部が越水した場合でも全区間が越水したように表示されたり、自治体が発表する「警戒レベル」と防災機関が発表する「警戒レベル相当」情報に関して、住民から問い合わせがあった。
- クリーク貯留水の事前排水を呼びかけたことにより、浸水被害軽減に効果があった。
- ペットのいる世帯の避難を今後検討していく必要がある。
- 内水による課題が多く見られたことから、内水対策の方法を今後検討していく必要がある。